

著作権に関する教育の実践事例レポート

(1) 教育活動の背景・ねらい

本校の地域には、CD ショップや CD・DVD を販売している店がほとんどない。地域の実態や普段の児童の会話を聞いていると、本校の児童が音楽を聴く方法として、携帯電話、タブレット端末、PC が多いと予想される。CD ショップや CD・DVD を販売している店がない中でも、児童が携帯電話やタブレット端末・PC を使い、自分の好きな音楽に触れることは大変うれしく感じている。

しかし、児童の実態を把握するために事前アンケートを行った結果（2. 教育活動前の児童の状況 に記載）本校の児童は、携帯電話やタブレット端末・PC を使う上で問題となる「著作権」への理解はあまりないことが分かった。「著作権」の取り扱いに関しては、中学校学習指導要領に「音楽に関する知的財産権について、必要に応じて触れるようにすること。」（中学校学習指導要領解説 音楽編 第四章 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項 (7)ウ）と記載されている。小学校の段階で「著作権」に触れることは指示されていないが、児童や地域の実態から、今後学年が上がりインターネット上で音楽を聴く機会が増えると予想されるので「著作権」という言葉に触れてほしい願いをもって本授業に取り組んだ。

(2) 教育活動前の児童の状況

児童の実態を把握するため、事前にアンケート調査を行った。

<アンケート結果> 配布22名 回収22名

質問	はい	いいえ
①「著作権」という言葉を知っていますか？	9	13
②あなたは、「著作権」について正しく理解していますか？	3	19
③音楽を演奏したり聴いたりする中で、「著作権」が関わる場面を知っていますか？ ※④に答えられない場合は「いいえ」にカウント	3	19
④③で「はい」と答えた人に聞きます。それはどんな時でどんな理由ですか。		
・ 作った人の権利 ・ 人の歌を勝手にコピーしてはいけません。断らないと問題になる。 ・ 音楽を聴いたりする時に、個人的に楽しむ以外で、利用してはいけません。 ・ 作った人に許可なく、発信してはいけません。		

事前に調査したアンケートの結果から、「著作権」という言葉に触れること自体が初めてという児童も多いことが分かった。また、『「著作権」が関わる場面を知っていますか？』

という質問に対して、何かしら答えられている児童も、正しく「著作権」を理解している児童はほとんどいないことがうかがえる。

(3) 教育活動の構成・視点

小学校第5学年音楽「鑑賞領域」で取り扱う。

本来であれば、音楽が誕生して私たちの耳に入るまでの行程まで学習させ、さらに「消費者が

著作者への正当な対価を支払う」ことが「さらなる著作物を産み、文化を発展させていくことにつながる」という所までの学習が、本当の「著作権」への理解である。

しかし、本授業は、「著作権」という言葉への出会いとして位置付け、児童がイメージしやすい作曲家・演奏者の立場になって考えることで、著作物 (=作品) を大切に思う気持ちを養うことに重点を置いた。

(4) 教育活動の指導計画・スケジュール

<< 2 時間扱い >>

	期 日	学習内容
第 1 回	平成 26 年 6 月 15 日 (日) 学校公開日	・オーケストラのひびきを味わって聴く。 ・主なせんりつについて考える。
第 2 回	平成 26 年 7 月 4 日 (金)	・楽曲を通して聴き学習のまとめをする。 ・作曲家や演奏者の想いを想像し著作権について触れる。

(5) 教育活動の内容・流れ

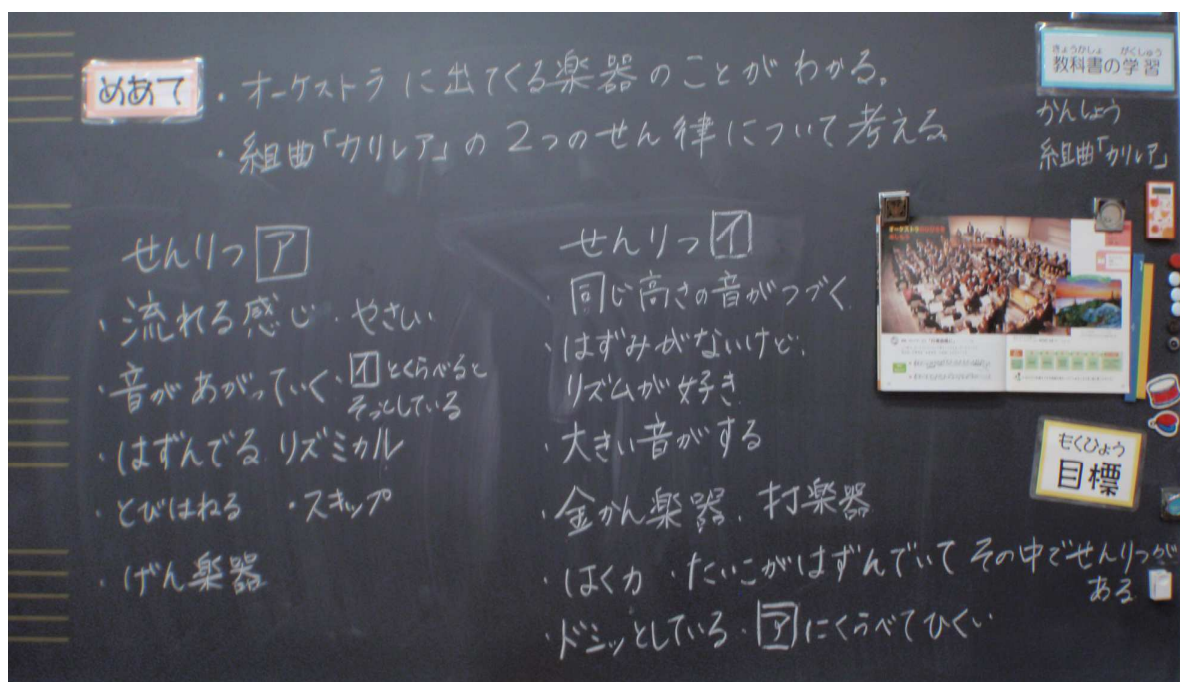
指導案 (別紙 1) 参照

(6) 教育活動の効果 (児童の変容など)

<鑑賞の授業として>

本題材の第 1 時では、第 2 時で児童に作曲家・演奏者の立場になって考えさせられるよう、楽曲の内容を学習させ、楽曲の良さを感じられるようにした。

【記録】第 1 回授業「発展 ○弦楽器と管楽器のひびきを思い出しながらせんりつ (ア) とせんりつ (イ) について考える。」より



【記録】第2回授業「発展 ○曲全体を通して聴き、今まで学習してきた言葉を用いて、曲の良さを自分の言葉でまとめる。」より（児童の感想から抜粋）

- ・楽器をひいている人が楽しそうにひいている感じがする。せんりつが高くなったり低くなったりしている。いろいろな楽器がまじっていろいろな音があっていいなと思った。
- ・ピッコロという楽器の音をはじめてきてすごくきれいだった。くわしくきくと、何十個もの楽器を使っているのがわかった。すごくわくわくする音楽だった。
- ・イのせんりつが変わる時に、リズムカルな感じからどっしりしたような音に変わって少しびっくりする。最後は全部の楽器が交わってじょうねつ的な音楽になっている。
- ・アとイのせんりつの終わり方が、ずっと変わっていてまったく違和感がない。打楽器がもり上げている感じ。強弱をつけているから迫力があって、最後は金管楽器がどーんときて、最後！！という感じがした。 等

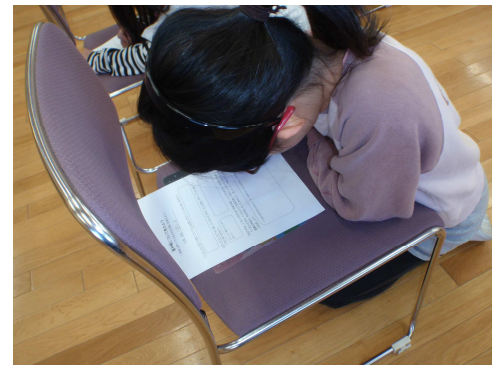


＜著作権の学習として＞ ワークシート（別紙2）使用
曲の良さや、内容を理解したうえで、作曲者や演奏者がこの曲についてどんな想いをもっているか想像させ、楽曲や演奏を大切にすることと「著作権」を結び付けた。

【記録】「著作権」の学習時のプリントより

①シベリウスがこの曲についてどんな想いをもっていると思いますか？

- ・たくさんの人に聞いてもらいたい。 ・時間をかけて大切に作った。
- ・じっくり考えて作って、「いい曲になった。」と思っている。
- ・時間をかけて作った。この曲のために何個も楽器を使って書いているから強い想いが込められていると思う。
- ・多くの人に感動してもらえるように心をこめてつくった。
- ・楽器の数が多いので音や楽器について深く考えた。 等



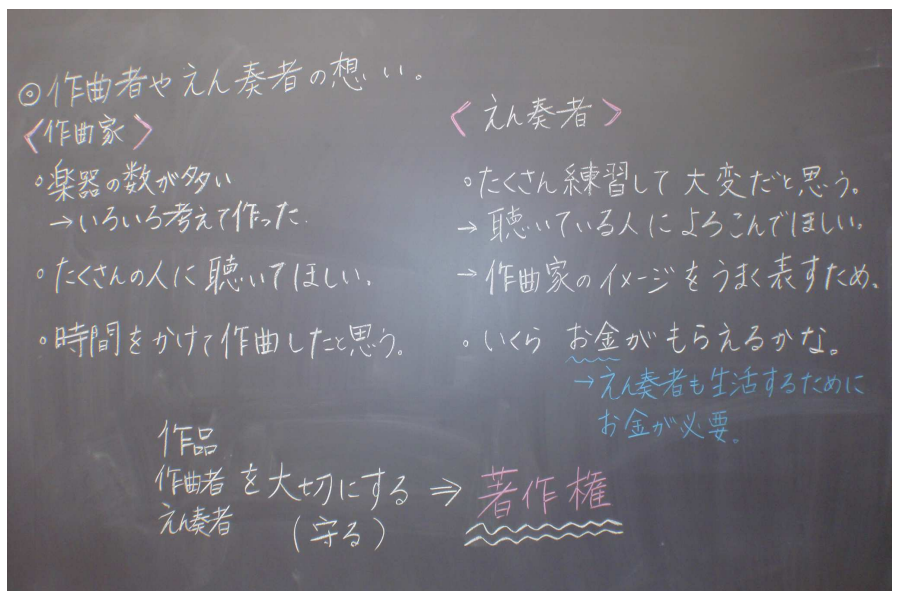
②オーケストラでえん奏している人たちは、どんな想いをもってえん奏していると思いますか？

- ・少しでも間違えたら、きいている人ががっかりしてしまうからたくさん練習しよう。
- ・お金いくらもらえるかな。
- ・「きれいな曲だな」「はく力のある曲だな」ときいている人にも分かるようにえん奏したい。
- ・大変だけど、みんなに聞いてほしいからがんばって練習しよう。

- ・シベリウスさんの想い描いているイメージ通りひけるようにがんばろう。
- ・シベリウスさんの期待に応えたい。 等

③私たちは、いろいろな方法で音楽を聴くことができます。作曲者や演奏している人たちは、どのように音楽を聴いて欲しいと思っているでしょう。鑑賞の学習や、今日学習したことをもとに、思ったことや感じたことをまとめましょう。

- ・今までは知らなかったけど、今日学習して「著作権」という言葉を知ったので、少し考えてみたいです。
- ・今までは、楽しんで聴いていたけど、今日学習して、これからは演奏している人たちや作曲者の気持ちを考えて聴きたい。
- ・「著作権」は知っていたけど、今までは全然気にしていなかったなので、これからは「著作権」について少し考えてみようと思いました。
- ・私は、そんなに曲を聴く機会がないけど、演奏している人たちや作曲者の気持ちになると、「著作権」は大切だなと思いました。これからは演奏している人たちや作曲者の気持ちも考えたいです。等



(7) 成果と課題

<成果>

今回の授業の成果として、児童が作曲者と演奏者の立場となり、作曲者と演奏者の音楽に対する思いまで考えを広げることができた。作品を生み出す過程にも触れることができ、生み出された作品を大切にしようという思いをもてたことが成果として挙げられる。また、児童が「著作権」という言葉と出会い、今後、「著作権」について考えるきっかけとなった事も大きな成果であると考えている。

<課題>

「著作権」を授業で取り上げてみて、音楽に関する「著作権」を正しく理解させることは小学生の発達段階を考えると難しいと感じた。生み出された作品を大切にしようという思いをもてたことは上記したとおり大きな成果となったが、大切にする方法として、具体的な案を考えさせることができず、教師が口頭で説明することとなった。地域の実態を考えると、情報の取り扱いの指導は必要不可欠であり、今後児童が正しく情報を取り扱えるよう、子どもに分かりやすい言葉で「著作権」について説明できるよう自分自身の知識や指導力を向上させなければならない。

最後にこのレポートを作成している中で、他の小中学校の音楽の授業で実践している様子を知りたいと思った。

過去の「著作権に関する教育の実践レポート」も参照したが、音楽に関わる実践事例が少ないことに驚いた。今後、私たち音楽に関わる教師が、この取組に賛同して広めていくことが大切である。

(別紙1)

音楽専科指導案

平成26年7月 4日(金)

第5学年 男子8名 女子14名

指導者 小林 和季 ㊟

題材名 『組曲「カリレア」から「行進曲風に」(シベリウス作曲)』

- 目標
- オーケストラのひびきを味わって聴く。
 - 楽曲を聴き曲の良さを伝えることができる。
 - 作曲家や演奏者の思いを想像し、著作権について学習する。

指導案(2時間扱)

第2時

	○活動内容 ・ 予想される児童の反応	◇指導上の留意点
導入	<p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none">①主な2つのせんりつがどのように変化していくか聴く。②楽曲を通して聴き、曲の良さを自分の言葉でまとめる。③著作権について触れる。 <p>○主な2つのせんりつを思い出す。</p> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none">・せんりつ(ア): スキップのリズムがあった。流れる感じ。弦楽器だった。・せんりつ(イ): 大きなおとだった。迫力がある。どっしりしている。管楽器だった。	<p>◇聴く前に、どんなせんりつか覚えているかどうか確認する。(音楽的用語を使って発表させる)</p>
発展	<p>○ワークシートを使い、曲の進み方をくわしく聴く。(楽曲は区切りながら聴く。)</p> <p>○曲全体を通して聴き、今まで学習してきた言葉を用いて、曲の良さを自分の言葉でまとめる。</p>	<p>◇2つのせんりつのどちらを、どの楽器群がえん奏しているか知覚させる。</p> <p>◇音楽的用語を使って自分の考えを具体的に書かせる。</p>
まとめ	<p>○本時の振り返りをし、次時の確認をする。</p>	

(別紙2)

ちよさくけん

著作権について考えよう

～音楽に関わっている人たちの想いを考えよう～

5年 氏名 _____

①シベリウスがこの曲についてどんな想いをもっていると思いますか？

②オーケストラでえん奏している人たちは、どんな想いをもってえん奏していると思いますか？

どのくらい練習しているの
かな??

③私たちは、いろいろな方法で音楽を聴くことができます。作曲者や演奏している人たちは、どんなふうに音楽を聴いて欲しいと思っているでしょう。鑑賞の学習や、今日学習したことをもとに、思ったことや感じたことをまとめましょう。

<<自分の考えをまとめる>> 例：「今までは～だったけれど、今日学習して～。」